

35番 山口素子 「飛翔～大海原へ花船に乗って～」

今回、宝船展 2019 へ初参加させていただきました。

アートクラフトタイルを工具で割って細かなピースにし、ベニヤ板に図案を描き様々なモチーフを画面へ構成したところへ四角、三角、丸や花びらやしずくのような形に小さくカットしたタイルを、サイズや貼り方やスペースなどを考えながらモザイク状に貼り並べて製作いたしました。

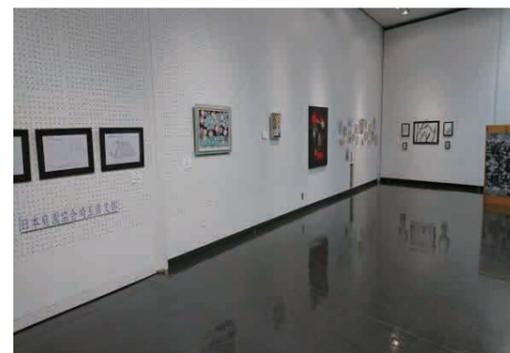
図案は吉祥紋様の青海波、千鳥、菊の花をあしらいました。今回の作品は、病に立ち向かう友人を励ましたい！との想いから製作を開始しました。人は困難に直面したとき、不安、動揺、焦り、苛立ちなど、様々な感情が湧きあがります。そのネガティブな感情が心を支配してしまったとき、どうやって心を整え穏やかな気持ちにたどり着き、決意を持って困難に立ち向かっていくのでしょうか。心が強くなり前を向いてチャレンジをしていく、その心の動きや変化というものが、何に作用され突き動かされそして原動力となってポジティブに前へ進んでいけるのだろうか？と考えます。それは、人が持つ内面の力と環境や周辺が与えるいろいろな出来事であったり経験であったり作用するのではないのでしょうか。時間というのも前を向く力のひとつかもしれません。

私が作品を製作するときには、必ずストーリーがあります。自分の生活の中で何かが起きたとき、あるいは、心を動かされたりハッとする出来事に遭遇すると私の中で事件となって心が動かされます。その心の振動を受け止め気持ちを落ち着かせたいと願ったり、何とかならないかと思ったりすることを作品の中に閉じ込めます。何かのエネルギーが湧きあがると作品への意欲や情熱が満ちてきます。皆さんもきっとそういう経験があるのではないかと想像します。

製作中はとにかく楽しい一言です。作っている時間が愛おしく大切に思いながら集中できて充実感を得たりします。つらいとか間に合わないからどうしようとか、そういうことで製作したことは一度もありません。期限や何かの制約に縛られたくないからです。もちろん肩が痛くなったとか目が疲れたとかそういった症状には悩まされます。作品に閉じ込めた時間というのは、私の願いや希望や素敵なことが起こりますようにと思いながら作るの、自分に何があったのか、その時どう思っていたのか、「私の歴史の目撃者」が作品ということになります。私にとりまして自分を振り返れる作品となりました。今後もタイルモザイク作品を様々な出来事の中でライフワークとして製作していけたらと思います。

この度はこのような素晴らしい発表の機会を頂き、事務局担当者の皆様にも大変お世話になり本当にありがとうございました。

【展示会場風景】



【製作写真1・2：ベニヤの上に花の形で作ったタイルをそれぞれ乗せていく】



【製作写真3・4：千鳥の形にカットしたタイルを散らして波をモザイク状に貼っていく】



【製作写真5・6：波が出来上がったら背景となる紺色の小さく四角くカットしたタイルを貼っていく】



【製作写真7：タイルとタイルの隙間に目地材を上から塗り込みふき取り磨き作業して完成】

